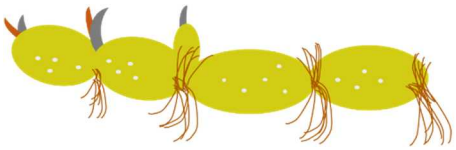
まずは土を知りましょう！

土壌診断で見える「ほ場の健康診断」

なぜ土壌診断が必要なの？

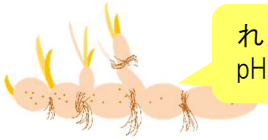
れんこんの安定生産には、土づくりが欠かせません。
連作や施肥の積み重ねによって、ほ場の養分バランスは少しずつ変化します。
土壌診断で現在の土壌状態を把握し、ほ場に合った施肥につなげましょう。



養分バランスが崩れると、生育不良や病害発生のリスクが高まります。

土壌診断でわかること

土壌診断では、pH や養分量など、施肥設計に役立つ情報を確認できます。

pH（H_2O）	作物ごとに**適正な pH** があり、適正外だと根が養分を吸収しにくくなります。  れんこんの適正 pH は 5.0～6.2
アンモニア態窒素	**ほ場に残る窒素の量がわかり、次作の施肥設計に活用できます**。分析機関によっては測定に追加料金がかかることがあるため、事前に確認してください。 簡易キットなどで測定 
石灰 苦土 加里	不足や過剰を確認し、適切な施肥量を考えることができます。**特に加里は、れんこんの肥大に必要な養分です。** 加里はれんこんの肥大に必要 加里 バランスが悪いと吸収できない三角関係 苦土 ⟷ 石灰 苦土や石灰は、植物細胞の構造や機能の維持に必要
石灰苦土比 苦土加里比	**石灰・苦土・加里は互いに影響し合い、**これらのバランスが悪いと作物が養分をバランスよく吸収できないことがあります。**特に石灰と苦土、苦土と加里のバランスが重要です。**
リン酸	**れんこんでは過剰な場合が多いです。**現地で過剰障害が発生することは少ないですが、過剰な場合は施用量を減らす必要があります。 また、**茨城県のレンコン黒皮症の黒点にはリンが集中しており、ほ場のリン酸量と関係している可能性があることからも適正値に近い方がよいと考えられます**。  レンコン黒皮症の黒点を分析すると、リンと鉄が多く含まれていた

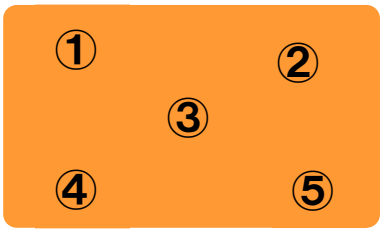
土壌診断は意外と簡単！

まずは土を採取してください。土壌診断は、全農分析センターや普及センターで受け付けていますので、提出方法などの詳細は提出先にご確認ください。

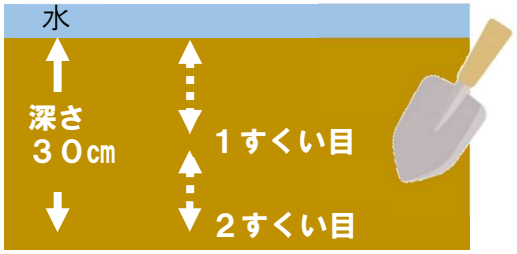
土壌採取のポイント

1　土壌の採取

- 採取時期は<u>土壌の状態が落ち着く収穫終了から１か月後以降</u>が理想です。
- <u>ほ場の中央と四隅の５点</u>で、地点ごとに深さ 30 ㎝までの土壌を<u>なるべく均一に採取</u>します。
- 採取した土壌を<u>十分に混ぜ合わせて</u>サンプルとします。



中央と四隅の計5点で採取



移植ごての場合は 2 回に分けて採取

2　土壌の乾燥

- 土壌を新聞紙などの上に<u>５㎜程度にうすく伸ばします。</u>
- <u>ボロボロ割れるくらいまで乾燥</u>させます。
- 細かく砕いて、<u>ご飯茶碗１杯分の量</u>をビニール袋に入れます。


厚く重ねた新聞紙1面分に均等に伸ばし、残渣や大きな石は取り除くとより乾きやすい

乾燥の目安


※ アンモニア態窒素の測定では、乾燥前（泥）の状態での提出が必要となる場合がありますので、事前に提出先に確認してください。

堆肥を使いこなすには？

肥料コスト削減を目的として、堆肥の利用が増えています。
堆肥の特徴を知り、うまく活用しましょう。

- 土づくりは<u>長期的に考え、一度に多量投入しない。</u>
- <u>目的に応じて堆肥の種類を選択する（表）。</u>
- 肥料を堆肥で代替えする場合は<u>化成肥料と併用</u>する。

表　一般的な堆肥の特性

種類	分解速度	効果	C/N比	備考
馬ふん	遅い	土壌物理性の改善	高い	多量に入れるとガス害の発生リスクあり
牛ふん				多量に入れるとガス害の発生リスクあり
豚ぷん				
鶏ふん	早い	肥料効果	低い	リン酸や石灰が多い